

WROJapan2008
オープン部門・ルール

■概要

オープン部門は、科学技術的アプローチで、テーマについての考え、研究、解決策、提案といった内容を表現します。ロボットを使って表現を製作し発表します。

■テーマ

「地球環境保護」

地球保護の環境は未来のグローバルなテーマです。

科学技術的な見解、特にロボットを使用してこの問題にアプローチするのは重要です。

・地球温暖化防止

例：工場の排出ガスの規制

化石エネルギー以外のエネルギー（太陽光、風力等）

電気使用抑制装置

・酸性雨対策、計測

・海洋・河川汚染の計測、浄化

・森林の保全、砂漠化対策

・恐竜の絶滅と地球環境の変化

・家庭や学校でできる環境の節約「もったいない」

などが考えられます。

■共通

1) WROJapan2008 決勝大会のレギュラー部門の参加チームは、WRO Japan2008 オープン部門に参加できない。

2) 選手の年齢ごとに各部門に参加すること。

3) 各部門の選手の参加資格

小学生部門：小学生4年～6年。日本国内の小学校に所属していること。

中学生部門：中学生1年～3年。日本国内の中学校に所属していること。

高校生部門：高校生1年～3年。日本国内の高等学校に所属していること。

4) チーム構成

参加はチーム単位とする。

チームは1名のコーチと、2名または3名の選手で構成されていること。コーチは成人であること。

5) 引率者としてのコーチ

コーチは、選手の引率者として選手の行動に責任を持つこと。

■発表

1. 機材

1) ロボット、ソフトウェア

教育用LEGO Mindstorms RCX または NXTの制御部(CPU内蔵部品)を最低1つ利用すること。
以外の機材について禁止事項を除き制限はない。
ロボットは自律型であることを推奨する。動かすためのプログラミング言語、ソフトウェアに規制はない。

2) 全ての機材は参加チームにて準備すること。

2. 発表の規格

展示ブースでの発表に対応できるものであること。
展示ブースのサイズは、幅2970mm×奥行き930mm。
展示ブース内には机(幅1800mm×奥行き600mm×高さ700mm)があり、この机を利用してもよい。
展示ブース内には、製作内容説明等のポスターを掲示できる。

3. 発表と審査

1) 全体の流れ

I. 予選: 資料とビデオ審査

発表内容をまとめた資料と発表内容を記録したビデオデータにより、内容審査する。
この審査結果にて WRO Japan2008 決勝大会参加チームを選抜する。

II. 決勝: パシフィコ横浜での展示とプレゼンテーション

上記 I. で選抜された WRO Japan2008 決勝大会参加チームは、WRO Japan2008 決勝大会(パシフィコ横浜)にて、ブース展示と審査員へのプレゼンテーションを行う。

III. 決勝での表彰と国際大会選抜

予選での資料、ビデオデータと WRO Japan 決勝大会でのブース展示と審査員へのプレゼンテーションを総合的に審査し、優秀チームの表彰ならびに WRO2008 横浜・国際大会参加チームを選抜する。

2) 予選:

発表内容を記録したビデオデータと、発表内容をまとめた資料(A4 版 1 枚~2 枚)により、その内容を審査します。

I. 発表内容をわかりやすく資料にまとめてください。

II. ロボットを使った製作展示をプレゼンテーションした内容をビデオに撮影してください。

プレゼンテーションは、参加チームの選手が行ってください。

プレゼンテーションは、日本語で行ってください。

プレゼンテーションの制限時間は2分間です。

III. 資料、ビデオデータは、後日指定される形式、方法によって、WRO Japan 事務局に電子データで提出してください。

IV. 資料とビデオデータの内容を審査員が審査します。審査の結果、WRO Japan2008 決勝大会チームを選抜します。

3) 決勝

予選から選抜されたチームは、WRO Japan2008 決勝大会の会場内にて、製作内容のブース展示と審査員へのプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションの時間は最大 10 分間。審査員による質疑応答が最大 5 分間とします。

4) 決勝での表彰と国際大会選抜

予選での資料、ビデオデータと WRO Japan 決勝大会でのブース展示と審査員へのプレゼンテーションを総合的に審査し、優秀チームの表彰ならびに WRO2008 横浜・国際大会参加チームを選抜します。

審査のポイントは以下です。

- A. テーマとの合致
- B. 表現の創造性
- C. 製作技術的内容
- D. プレゼンテーションの方法、内容、およびチームワーク

6. 禁止事項

- 1) 火気使用および爆発の危険性があるものは使用禁止。
- 2) 異臭発生するもの、人体および施設に害をおよぼすような材料、大音響を発生するものは使用厳禁。
- 3) その他、発表者、見学者に危険をもたらす道具、材料の使用禁止。
(例:ドリル, 注射針 等)
- 4) 水の使用は可とするが、絶対に施設を濡らさない対応とすること。
- 5) 公序良俗に反する内容、表現は禁止。

7. 著作権

提出された資料、ビデオデータの著作権は、参加チームが保持するとともに、WRO2008 横浜大会組織委員会、NPO 法人 WRO Japan が保持します。

なお、他者の著作物を製作内容に利用する場合には、その内容を資料内に明記する必要があります。

以上